

## 「焼締—土の変容」展の開会

6月19日、青木大使は、アルメニア国立歴史博物館において開催された巡回展「焼締—土の変容」の開会式に出席しました。式典にはこのほか、アルメニア国立歴史博物館のダヴィト・ポゴシヤン館長及びアルフレッド・コチャリヤン教育・科学・文化・スポーツ省次官が出席しました。

本展は、国際交流基金海外巡回展事業の一環として、アルメニア国立歴史博物館との共催により開催されるものです。

開会の挨拶において、ポゴシヤン館長は、伝統的な焼締技法によって制作された約80点の陶芸作品がアルメニアで初めて展示されることを紹介しました。また、自らを日本文化の愛好家であると語ったコチャリヤン次官は、近年アルメニアで日本文化関連行事が増加していることを歓迎するとともに、アルメニア国民の日本文化への関心が高まっていることに言及しました。

青木大使は、本展がこれまで世界各国で好評を博してきたことに触れ、今回アルメニアで開催できることへの喜びと関係者への感謝を表明しました。また、焼締が12世紀の平安時代末期頃に始まったことを紹介し、「焼締」という言葉は文字どおり「焼いて締める」という意味であり、高温で焼成することで土が緻密で丈夫になる製法を表していると説明しました。

さらに大使は、本展は単なる日用品としての陶器を紹介するものではなく、世代を超えて受け継がれてきた生きた文化的伝統を伝えるものであると述べました。何世紀も前に生み出された技術が、現在も皿や茶碗、花瓶などの制作に用いられており、焼締の技術と文化が次世代へと受け継がれていることを強調しました。

式典では、ロマノス・メリキヤン記念国立音楽学校の教員であるピアニストのアンナ・アレクサニヤン氏と、声楽家のカリナ・ゲヴォルギヤン氏による日本歌曲「浜辺の歌」の演奏も披露されました。

本展では、12世紀の壺、人間国宝による作品、そして現代の焼締作品など80点以上を展示しています。

本展は7月10日までアルメニア国立歴史博物館で開催されています。



展示会場



開会の挨拶



「浜辺の歌」 歌唱



青木大使とボゴジャン館長



鑑賞の様子



来場者の様子